

NPO 法人キッズドア

2021 年夏緊急提言に向けたアンケート結果について

NPO 法人キッズドア理事長 渡辺由美子
2021 年 7 月 9 日

生活に困窮している家庭にとって、昨年から長引くコロナウイルスと夏休みの影響は非常に深刻で、子どもの成長や健康に取り返しのつかない被害が出る可能性があります。そこで、2021 年夏に子育て家庭を対象とした臨時給付金施策を早急にご検討いただくことが必要と考え、キッズドアでは以下の緊急 WEB アンケート調査を実施しましたので、結果をご報告いたします。

1. アンケート概要（目的、調査対象・期間）

コロナ禍の影響長期化による課題、及び、子どもの夏季休暇を原因とする、食事・子どもの居場所・子どもの学習・子どものケア等について家庭が抱える不安、課題等の実態把握を行う。

なお、これまでの調査で把握してきた基礎的設問はモニタリングのため継続実施し、コロナ禍により収入変化を受けやすい職種・就業形態、これまでの給付金等の課題を把握するための新規設問を追加。

- 対象：ファミリーサポート事業登録の世帯（末子が高校生までの子どもを持つ困窮世帯、約 2400 件）
- 期間：2021 年 6 月 26 日～7 月 3 日（約 1 週間）
- 回答数：1469 件（回収率約 60%）

2. 調査まとめと提言

- 年収 200 万円未満の家庭が 6 割を超えており、2021 年はさらに減収する見込み。貯蓄額が 10 万円未満の家庭も半数を超えており、生活が極めて不安定な状況に置かれている。
- 2021 年度も収入が減少しようという家庭が 7 割となり、困難な状況の継続や深刻化が予測される。
- 二人親家庭も、一人親家庭と同様に困窮し、子育て環境、健康等に大きな課題を抱えている。
- 食事の質や量が悪化。子どもの成長に取り返しのつかない影響が出ている可能性がある。
- 夏休みで給食がなくなることへの不安が大きい。給食が支えていたぎりぎりの食生活が夏休みに崩壊する可能性がある。
- コロナウイルスを原因とした休校等の影響で、子どもの学習環境も悪化。子どもの進路や将来に深刻な影響が出ることに大きな不安の声が寄せられている。
- コロナウイルスを原因とした生活環境の変化等により、保護者の心身の健康状態にも大きな影響が出始めている。
- 今、家庭が最も求める支援は、生活と生命を支えるためのすみやかな現金給付。

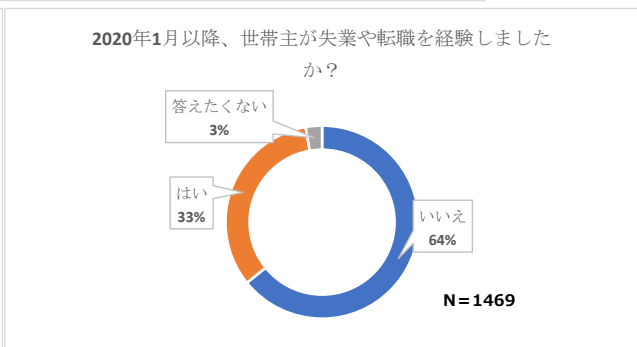
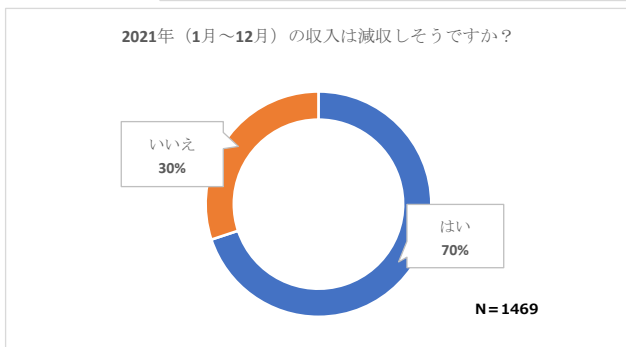
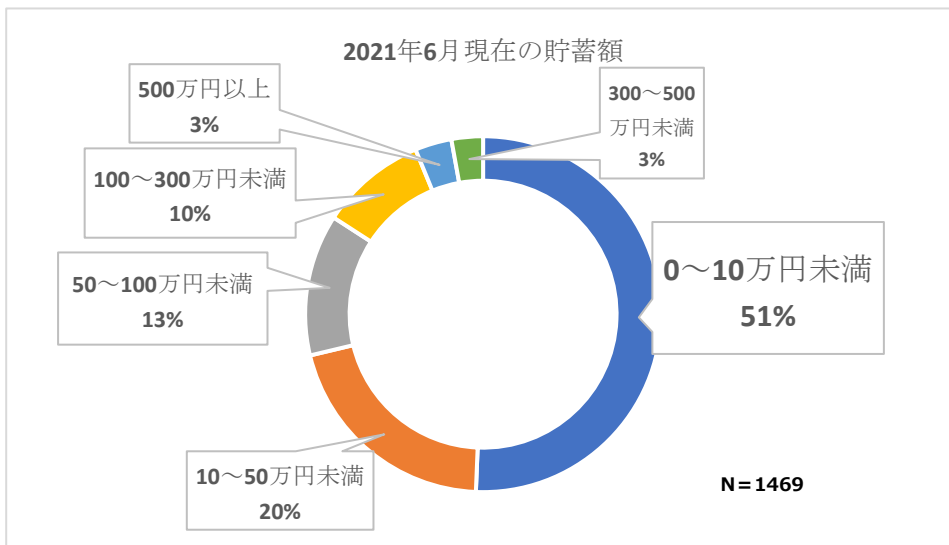
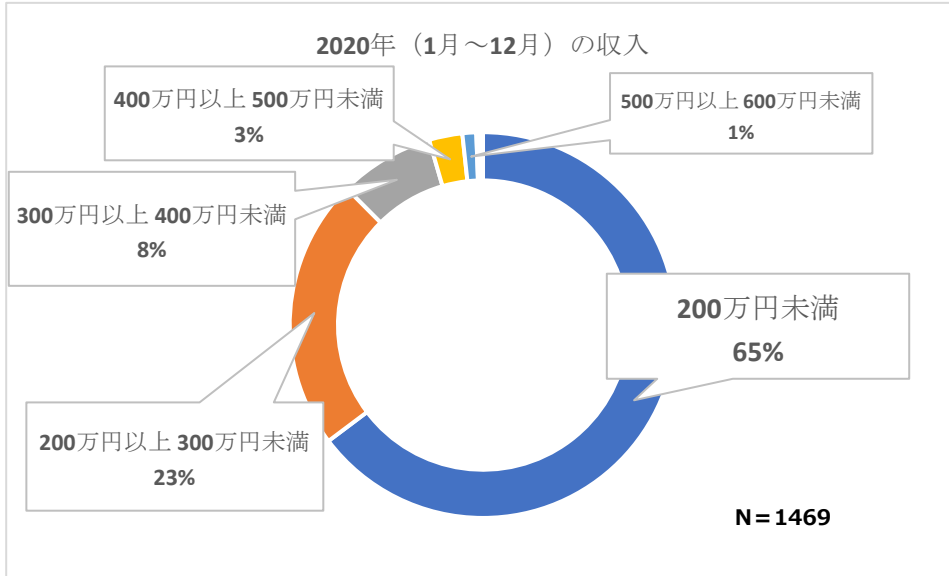
今回の調査では、2020 年度と比較して、さらに困窮家庭が困難を抱えつつある現状が明らかとなった。特に、子どもの成長や進路、保護者の心身の状況等について、強い不安感や懸念の声が多く寄せられた。これらは、コロナ禍の長期化等によって労働環境や経済状況が悪化するなどして、子どもや保護者の生活や健康に大きな影響が出始めていること、コロナウイルスによる休校や外出制限が続くことで子どもの生育・学習環境が悪化していることなどが原因と考えられる。さらに、夏休みに入って、子どもの食生活の重要な基礎となっていた給食がなくなることで、こうした状況は急速に悪化する可能性がある。

したがって 2021 年夏は、こうした家庭の状況をさらに悪化させるままにするのか、改善へ向かわせるのかの分水嶺となる非常に重要な時期といえる。**今、困窮家庭にとって最も重要な支援はすみやかな現金給付**であり、それを実現するための施策を至急ご検討いただきたい。

アンケート結果概要

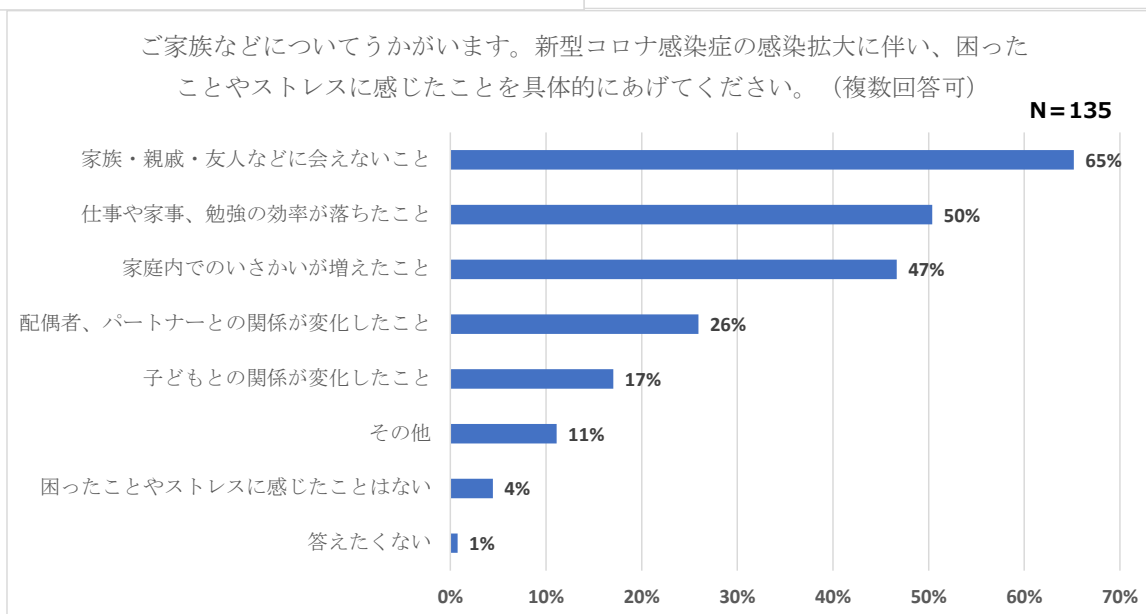
1) 2020年、2021年の収入、失業等の状況

2020年時点で年収200万円未満の家庭が6割を超えており、2021年はさらに減収する見込み。貯蓄額が10万円未満の家庭が半数を超え、コロナ禍で失業、転職を経験している家庭が3割を超えるなど、不安定な状況に置かれている現状が浮き彫りとなった。子育てへの深刻な影響が憂慮される状況。



2) 二人親家庭の実態

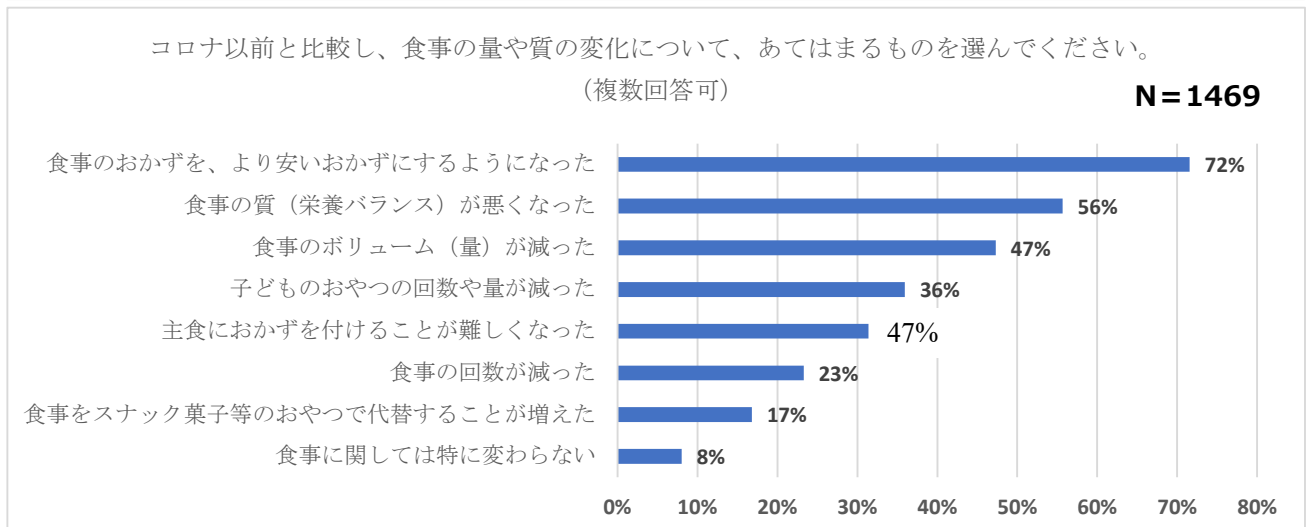
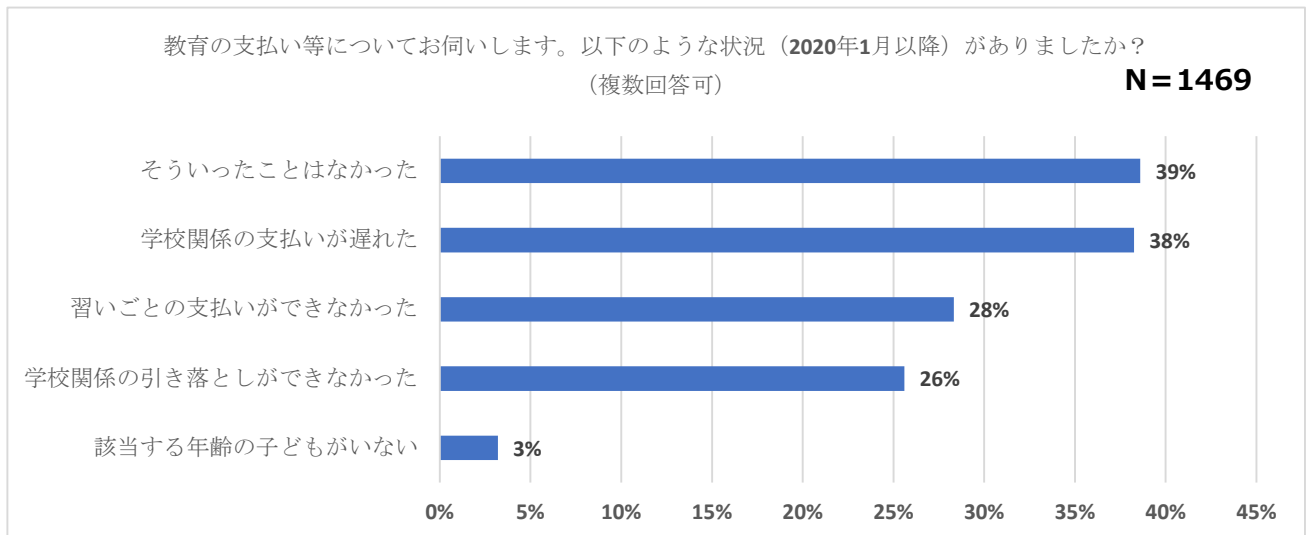
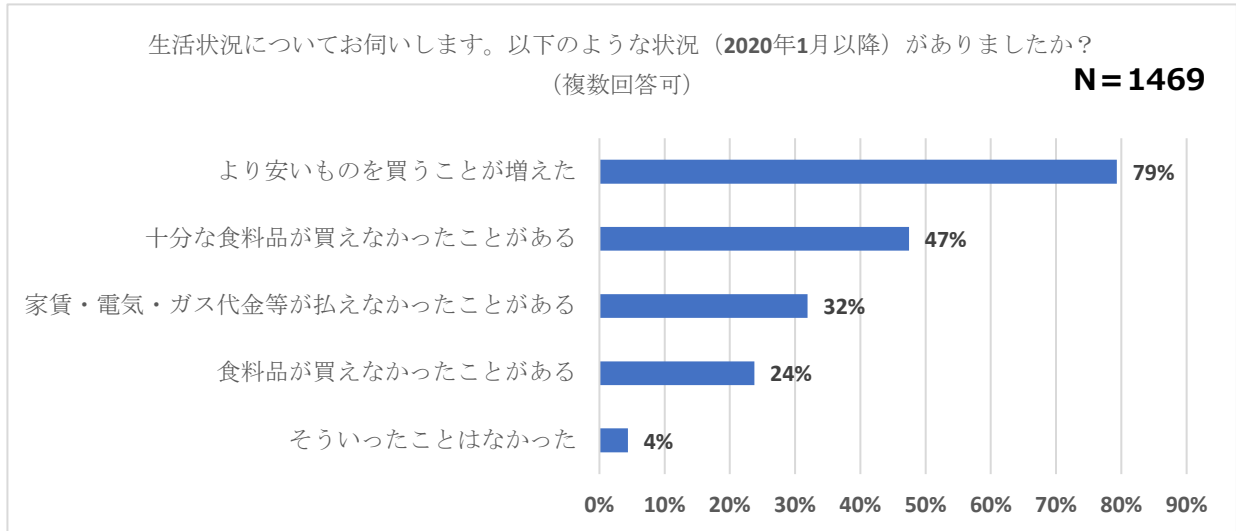
本調査では、一人親家庭だけではなく、二人親家庭（135件）の実態についても把握。二人親家庭であっても、年収200万円未満の家庭が約3割（300万円未満の家庭も含めると二人親家庭全体の約半数）。貯蓄額も10万円未満が6割（一人親家庭も合わせた全体では51%）を超えるなど、一人親家庭と比較しても同じように困窮していることがわかる。家庭内の状況についても一人親家庭と同様に、孤立、仕事や勉強の効率低下等の課題を抱えていることが判明した。



3) 生活、子育てへの深刻な影響

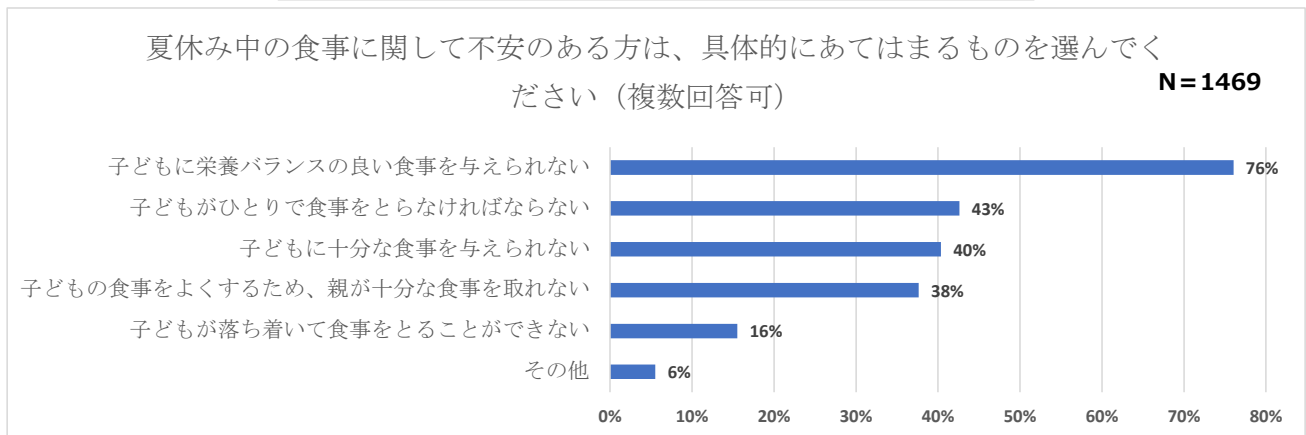
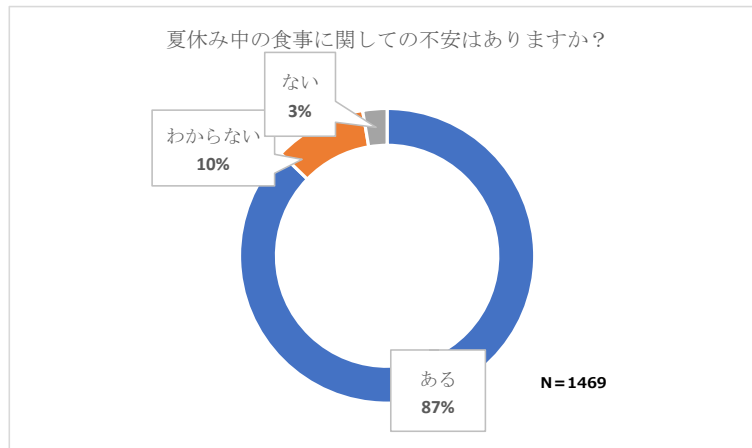
困窮家庭では、すでに十分な食料品が買えない、生活インフラに関する支払いができないなどの生活への影響が深刻化。さらに、学校関係の支払いが遅れた人も4割近くに上った。

また、困窮は食事の量や質に大きく影響している。子どもの成長に大きな影響がすでに及んでいる可能性が高い。



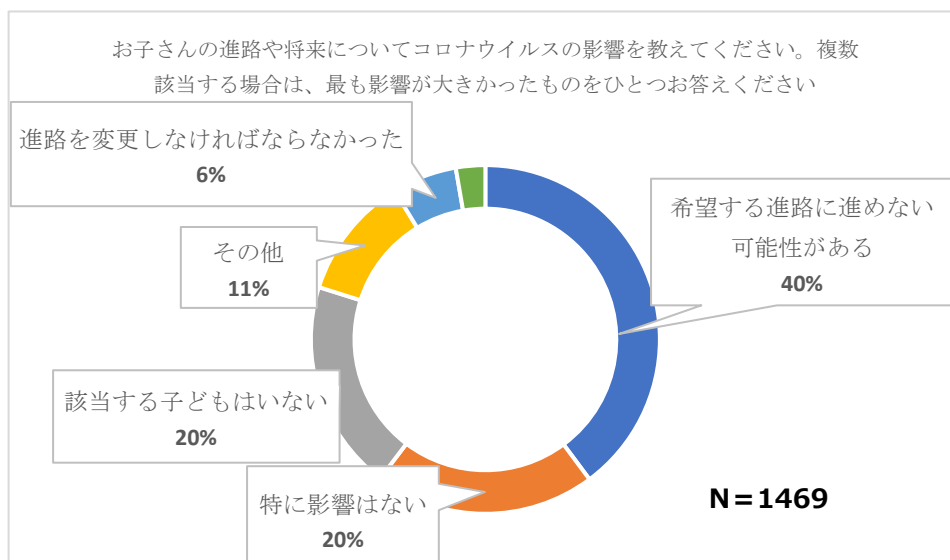
4) 夏休みの影響（給食がなくなることの影響等）

夏休み中の食事に不安を感じている家庭は約 9 割にも達している。例えば、夏休みに給食がなくなることで子どもに栄養バランスの良い十分な食事を与えることができないのではないかと回答が 7 割以上寄せられた。



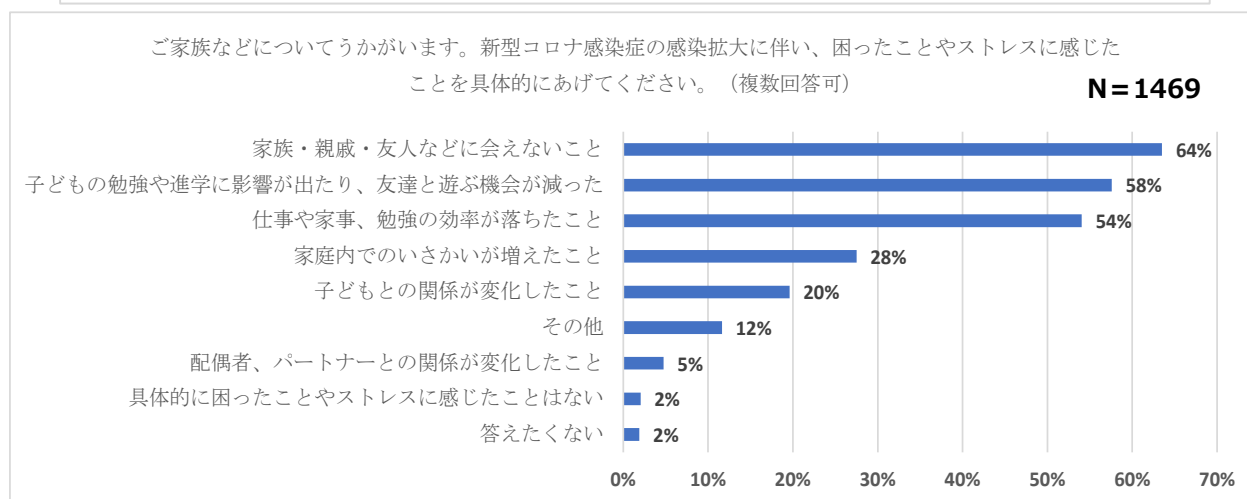
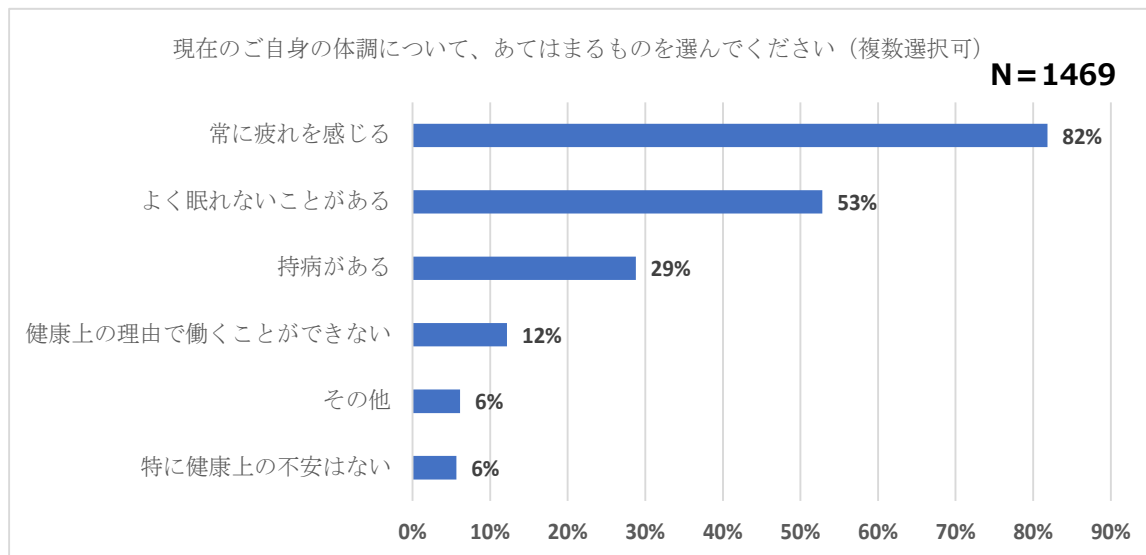
5) 子どもの進路への影響

コロナウイルスによる子どもの将来への影響についても、「希望する進路に進めない可能性がある」（40%）や「進路を変更しなければならなかった」（6%）という回答が寄せられている。今後、「希望する進路に進めない可能性がある」という回答も全体の 4 割に到達。子どもの将来にとっても、コロナウイルスの影響は今後ますます深刻化する可能性がある。



6) コロナウイルスの長期化による影響等（心身の健康状態、不安）

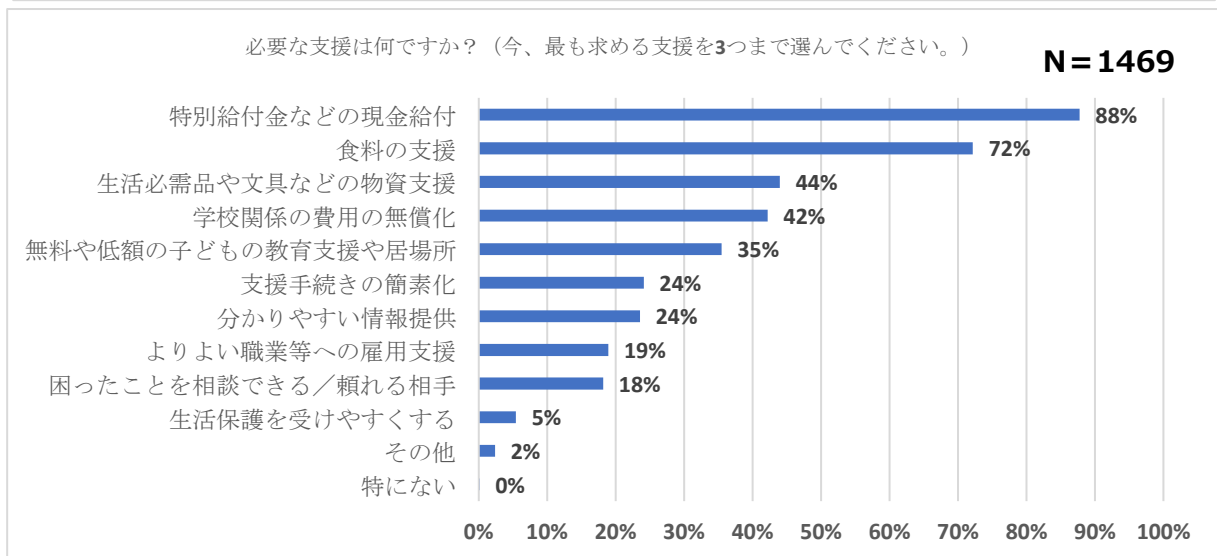
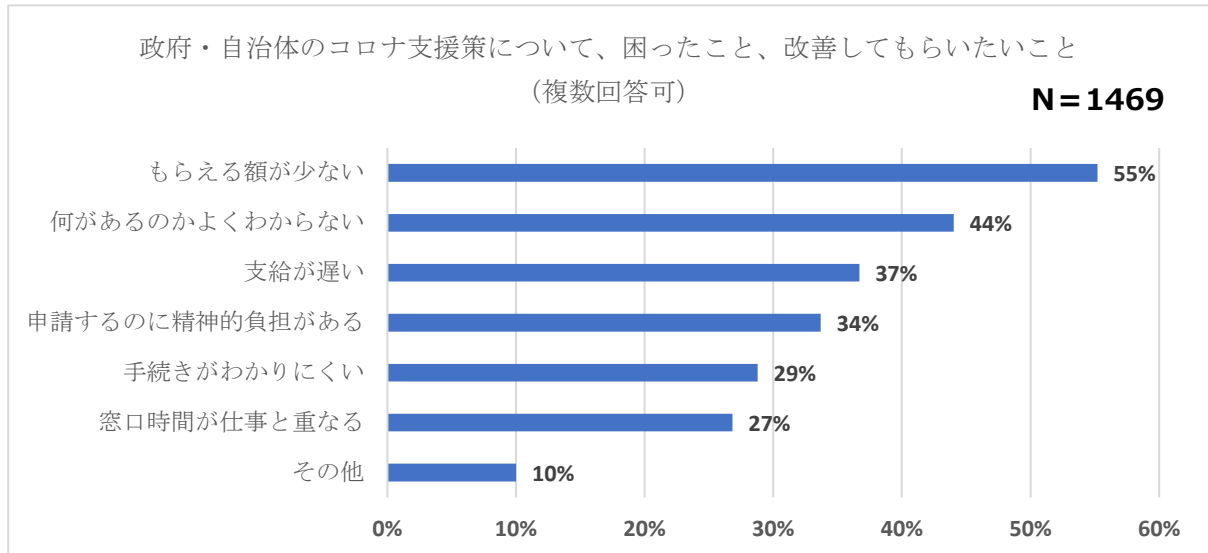
コロナ禍における生活環境の変化は保護者の心身の健康や体調等にも深刻な影響を及ぼしている。多くの回答者が倦怠感や不眠等に悩まされている状況。また、保護者や子どもが孤立してしまい、学習や仕事等の効率が下がっている現状が浮き彫りになった。



7) 今後求める支援

政府等による現行の支援策については、「もらえる額が少ない」という回答が最多。今最も求める支援についても、現金給付を求める回答が約9割に到達しており最多。

また、食料支援や物資支援等の直接的な支援だけではなく、教育支援、行政手続きの簡便化、雇用支援等、幅広い支援が求められている。



自由回答一部抜粋。

- 子供が小さく、預けられる場所もないため（子供は先天性心疾患があり、ペースメーカー入っています。）仕事が見つからないです。
- 安定した企業（大企業）に母子枠を義務付けしてほしい。小規模では休みの融通も利かず、つらいです。
- 児童扶養手当も、ほぼ家賃で無くなるので、結局子どもを犠牲にして働かなければならない。
- 図書館などの公共施設で勉強が出来ない為、子どもが自宅で、一日クーラー無しでは過ごせません。冷房代もかかります。
- 高校生の児童手当を早期に実現してほしいです。
- 小さな子たちには支援がたくさんあるが、1番お金がかかるのは高校生以上になったときだと思う。そこに対しての医療費免除や生活支援が欲しい。
- 大学入試にかかる費用(受験費用等)の負担が大きすぎる為、低所得の家庭の子供は受験にかなり不利である。
- 子どもたちが困らないように、おなかいっぱい食べられるように日々、奮闘しています。支援があるだけで、生きる力につながります。
- 病気があり医師から就労不可と言われていますが、息子との生活のため、なんとか奮い立たせ短い時間ですがパートにでています。中学にあがった息子に満足のいく食事も作ってあげられない状況です。洋服、お菓子、しばらく買ってあげられていません。わかりやすい方法で、定期的に少しでもいいので給付金の支援をお願いします。
- 将来を担う子どもたちの健康を最優先に考えてほしい。特に食生活はとても重要である。
- コロナで現金給付があったおかげで乗り越えられました。しかし申請しないと支援が受けられない。情報を漏らさないように、ネットでチェックする時間ももったいないと感じました。
- ひとり親の場合、仕事、家事、子供の食事、世話、通院、看護などすべてを担い、かなり体力が限界でイライラして子供にあたるときもあります。仕事をしていなければもっと勉強を毎日見てあげたり公園で遊ばせたりゆとりをもってできますが、それができないのもイライラの要因になっています。そのため、親代わりに時々学習面や遊び面をフォローしてもらえ人が来てくれたらありがたいです。勉強はかなり遅れています、私がみる時間があまり取れないのも起因しています。
- 今、本当に支援を必要とする人に、平等でわかり易い内容でスピーディな支援をして欲しいです。
- 十分な教育を受けられる家庭、そうではない家庭、その結果、格差がうまれると思います。格差が自信をなくしてしまうと思います。
- 大人たちが抱く将来に対する不安は、間違いなく子供たちに伝わっています。

以上